

予算額

4,731,200 円

トップアスリートによる巡回指導

巡回指導先団体総数	7 団体			
巡回指導先団体内訳	総合型クラブ	スポーツ少年団	学校	その他
	2 団体	1 団体	4 団体	団体

トップアスリート総数	9 名			
トップアスリートの内訳 (大会出場別)	オリンピック	国際大会	全国大会	その他
	名	4 名	3 名	2 名

アシスタントコーチ総数	6 名
-------------	-----

指導種目	陸上・サッカー・体操・バレーボール
------	-------------------

◆効果をもとめるための工夫や取組など

<ul style="list-style-type: none"> 体操競技: コレオグラフ(振り付け)の強化において、バレエレッスンの基本徹底を重要視した。
<ul style="list-style-type: none"> 陸上競技: 対象者の発育発達に応じた内容を指導できるように年齢によってメニューを変え指導を実施した。短距離走という単純な動作の繰り返しによって成立する運動特性から、運動者が飽きのないように、ミニハードルなどの道具を活用しながら指導展開した。
<ul style="list-style-type: none"> サッカー: 実践に近い課題でのゲーム形式練習を取り入れ、実践メニューを組んだ。コーン、ラガー使用。個人レベルに合わせた練習を独自に組み入れた。
<ul style="list-style-type: none"> バレーボール: 各プレーごとに細分化して練習を実施した。練習時間のまとめとして、必ずミニゲームをして練習成果の確認をした。終了時に口頭での指導内容確認した。不明な点は師範して確認した。
<ul style="list-style-type: none"> 高齢者向け体操: 脚強化など楽しくトレーニング出来るよう、独自開発した健康体操を使用して実施した。

◆成果と課題

〔成果〕

<ul style="list-style-type: none"> 発達段階に応じた課題を設定することによって、個人個人の発達状況にあった指導を展開することができた。
<ul style="list-style-type: none"> 専門性の高いドリルを定期的に継続して実施することにより、よりレベルの高い疾走技術を獲得することに貢献できた。
<ul style="list-style-type: none"> 日頃陸上競技と接している訳ではないごく一般的な小学生に対して、走ることへの興味、関心が高まるよう工夫して指導を展開した。その結果、楽しみながら走り方を覚えていく様子が見えてきた。
<ul style="list-style-type: none"> 高齢者対象の健康体操において、地域づくりも考慮し、オリジナルの歌詞、運動が大変好評であった。新聞掲載、ラジオ取材、講演依頼などメディアに話題として取りあげていただいた。
<ul style="list-style-type: none"> 4種類(脳活性化トレーニング、脚トレーニング、腸腰筋トレーニング、リズムダンス)の運動内容を考案し、音楽に合わせることで、楽しくかつ笑顔で運動が実施できた。
<ul style="list-style-type: none"> 誰でも参加できるという安心感や仲間意識が高まり、まさにコミュニティ形成が促進された。地域活性化でもメディアに取りあげられたことで、知名度が向上し認知された。

- ・ ボールをさわる時間を増やすことによって、個人のボールを扱う技術は向上した。それにより1対1の駆け引きをしながら、最終的にゴールを奪うという、サッカーの楽しさの原点を理解したり、感じる事が出来つつあったように思う。
- ・ 集団スポーツを通しての規律、ルールということも指導したことにより、挨拶、練習前の準備、片付けなど自ら気付き、取り組む姿勢が見受けられ子ども達の成長が感じられた。
- ・ 回を増すごとに人が増えてきて、活気のある中でトレーニングに取り組むことができたこと、トレーニングが始まる前、後にボールを触っている子どもが増えた。
- ・ 一番評価できることは、中学生が下級生に対してサポートが自然に出来ていたこと。
- ・ パスの質やコンタクトプレーなど、相手に合わせて判断しプレーできていた。
- ・ 大学生の年代で日本のトップレベルの現役選手から実体験に基づく指導を受けることができ、より豊かな知識を得ることができ、また、卒業後の進路についての情報も得ることができた。
- ・ 今後、直接関与するであろう山梨県における選手に選抜されるための基準をすることができ、また必要な課題を理解できた。
- ・ 練習の工夫において、ブロックやアタック、レシーブなどプレー別での上達が見られた。
- ・ 前回の復習をすることで、各プレーが関係していることを気付かせる事ができ、個々の技術的な向上が見られた。
- ・ 各プレーにおいて得点につながるような指導ができたなどの成果があった。

〔課題〕

- ・ 月に2回のペースと頻度が少なかったため、技能の定着度が今ひとつであり、改善の余地を感じる。
- ・ 疾走技能の獲得がパフォーマンス(タイムや大きな試合での成績)にどのようにつながっていくのか、確かめる客観的尺度(コントロールテスト等)を設ける必要性を感じた。
- ・ さらに、興味、関心を高めていく機会を設定するため、さらに継続したて教室を実施していくことの重要性を感じた。
- ・ スポーツに対して受講料を支払うという抵抗感が、まだ残っており、空間、時間、技術を提供して、その対価性で受講料がかかるということを理解してもらおうことが急務だと感じた。
- ・ 市町村のバックアップ、総合型地域スポーツクラブの指導技術など協力が必須であると感じた。
- ・ 年齢差があることにより真剣勝負の中でのトレーニングの時間はあまり確保できなかった。
- ・ 運動量も中学生を基準に考えると、物足りなかったように思う。
- ・ モチベーションも個人差があるので、全体をまとめるのは難しい。そのモチベーションをつくり与えてあげることも指導の中で今後必要なことだと思う。ある程度のクラス分けが必要かもしれない。
- ・ 講習にあたっての準備等の情報が不足していて、当日の指導に当たって混乱が生じた。トップアシリート及びアシスタントコーチが講習会場や講習対象者を下見できるシステムにすることが必要。
- ・ プレー別での上達はみられたが、チームとしての上達が見られなかった。
- ・ 一斉指導のため、上達に個人差が感じられた。
- ・ 短期間での指導でも、結果に結びつけられるような指導における工夫が必要であると感じた。
- ・ 指導期間が空いてしまうと、前回の内容とリンクさせながら取り組むには困難であると感じた。
- ・ 日によって参加人数が違う場合があり、チーム練習中心のメニュー時には、具体的指導ができない場面もあった。

地域課題解決に向けた取組

取組の名称	健康増進体操を利用した体力づくり及び地域活性化(独自開発した健康増進体操)				
趣旨・目的	<p>(趣旨) NPO、行政、企業が連携し、その地に存在する農産物などの地域資源を歌詞に入れて、独自開発した健康増進体操を作成する。その健康増進体操などの歌やトレーニングなどを組み合わせて展開する、今までにない地域教育を基盤とした地域活性化と新たな地域づくりを行う。</p> <p>(事業背景) 地域経済の停滞、高齢化、家族や地域との絆の希薄化、子育て支援など様々な問題が存在する。これらの諸問題を解決するための新しい公共が必要とされている。</p> <p>(目的) 地域の課題である①高齢化(介護予防、福祉)②地域づくり、まちづくり③子育て・子どもの健全育成</p>				
内容	<p>①健康増進体操(独自開発した体操)を作成する。 ②①を活用し、笑いを取り入れながら各市町村のイベント、高齢者施設、企業等に出張して親子体操、介護予防・ぼけ防止、体幹強化トレーニングプログラム作成及び教室の開催。また、①を活用し、市町村と連携した幼児向け・子ども向け体力づくりプログラムの作成及び教室の開催</p>				
対象者	幼児から高齢者	参加人数/回	20名~200名	実施回数	13
効果をもとめるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> 独自開発した健康増進体操(地域の特産物、地域資源を歌詞に入れた)を活用することによって、笑いながらトレーニング出来るように工夫した。 ヴァンフォーレ甲府のマスコットであるヴァン君と一緒に各保育園、幼稚園を巡回した。 				
成果	<ul style="list-style-type: none"> 笑いを取り入れた健康増進体操は、親しみやすく、かつ免疫力向上など健康増進のトレーニングができることは、幼児から高齢者までの問題(世代間の交流、転倒防止、ぼけ防止など)を解決に寄与した。 地域資源や地域特産物を歌詞に入れた体操を活用することにより、地域知名度アップをはかることができた。 地域に根ざしたプロサッカーチームのマスコットと一緒に体操を実施したことで、親しみやすく、明るく活動できた。 				
課題	<ul style="list-style-type: none"> 運動の程度が明確でなかったため、いくつかの施設の指導者の方に理解を求められなかった。県、市町村レベルで浸透できることが課題である。 				

小学校体育活動支援

派遣先学校総数	2 校
コーディネーター総数	5 名

◆効果をもとめるための工夫や取組など

<ul style="list-style-type: none">陸上運動:対象者の初期の能力レベルを知るために、担任教諭と事前の打ち合わせを数回行った。児童の発達レベルに応じてハードルの高さ、ハードルの間の距離などを数種類設定して指導展開をした。
<ul style="list-style-type: none">児童が意欲的に練習できるように、毎時間3つのテーマを設定しながら指導を進めていった。
<ul style="list-style-type: none">毎時間の授業成果を児童が学習カードに記録し、それを確認しながら授業を進めた。
<ul style="list-style-type: none">器械運動:対象者の初期の能力レベルを知るために、担任教諭と事前打ち合わせを数回行った。児童の能力レベルに合わせて班に分け、跳び箱の高さ、セフティーマットの活用など数種類設定して授業展開を実施した。
<ul style="list-style-type: none">児童が意欲的に練習できるように、毎時間テーマを設定しながら指導を進めていった。

◆成果と課題

〔成果〕

<ul style="list-style-type: none">小学校に地域スポーツ関係者が、コーディネーターを派遣して授業を進める画期的なことで、今までにないコミュニティ形成促進事業であった。
<ul style="list-style-type: none">コーディネーターが完成度の高い師範ができたことで、児童と教職員も視覚から運動をとらえることができた。
<ul style="list-style-type: none">技能レベルに分かれての練習の工夫、細かいレベルでの指導方法を伝達できた。

〔課題〕

<ul style="list-style-type: none">児童がスポーツや運動をする機会が減少していることで、体力低下が見られた。肥満傾向が見られ、動きの緩慢さが目立った。
<ul style="list-style-type: none">運動のおもしろさや楽しさ、運動量を含めながらの指導法、授業をとりいれることが大切だと感じた。

本事業全体の成果と課題

〔成果〕

- ・ トップアスリート派遣事業については、派遣先から非常に高い評価を得られた。トップアスリートの存在感、技術的な細かい指導方法、精神的な指導方法において、参加者がえるものが多かったと団体の担当者から全員の回答であり、地域スポーツにトップアスリートが参加協力して交流できる機会がもてたことは大変有意義な事業であった。
- ・ 小学校コーディネーターについては、師範の意義、指導内容の工夫、運動量などの指導方法が、教職員にとって参考になったとの回答であった。特に若い教職員は、熱心に指導案等を計画して、熱心に取り組んでいただき、今後の授業内容の充実の可能性を感じた。
- ・ 地域課題解決については、全県ホームタウンの企業スポーツであるヴァンフォーレ甲府との連携事業で、ルーデンススポーツクラブ作成協力のオリジナル体操で幼稚園、保育所の巡回指導が大変好評であった。
体操の内容も幼児向けに親しみやすい体操で、ヴァンフォーレ甲府のマスコットなどと一緒に体操を実施することで、幼稚園、保育所の子どもたちが積極的に運動に参加して体力向上のきっかけづくりになった。また、口ずさむことで、地域スポーツを間接的に応援する基盤づくりになった。

〔課題〕

- ・ 課題としては、すべての事業において、どのようにして市町村等の理解協力体制をつくりあげて、事業の継続を図ることが問題となる。
- ・ 小学校コーディネーターの派遣事業については、市町村の財政はかなり厳しい状況であり、市町村等の財政面での協力は期待できないのが現状である。従って、学校長をはじめとする教職員が総合型地域スポーツクラブの在り方、関わり方などをPTAや保護者、地域住民に対して、理解協力を率先的に行ってもらうことが先決である。地域住民のスポーツの重要性を認知させ、いかに財源の確保をしていく方法を地域住民すべてが考えて、地域づくりに発展して、経済を活性化していくことが最大の課題ではないかと思う。
- ・ この事業を通して、総合型地域スポーツクラブの存在意義として、早急に新しい公共の在り方を構築していかなければならない。